

# 英和対訳辞書における訂正増補の信憑性をめぐる問題に関する 一研究

— 柴田昌吉・子安峻編訳／天野為之訂正・鈴木重陽増補『附音図解英和字彙』の場合 —

村端五郎

A Study on the Credibility Issue of Correction/Enlargement  
in English-Japanese Bilingual Dictionaries

– The Case of *An English-Japanese Dictionary*, Originally Compiled and  
Translated by Masakichi Shibata and Takashi Koyasu, Corrected by Tameyuki  
Amano and Enlarged by Choyo Suzuki –

Goro MURAHATA

## Abstract

This paper discusses the credibility issue of correction/enlargement of *An English-Japanese Dictionary, second edition*, originally compiled and translated by Masakichi Shibata and Takashi Koyasu in 1873 (6th year of Meiji), corrected by Tameyuki Amano and enlarged by Choyo Suzuki published in 1886 (19th Year of Meiji). This bilingual dictionary has been undervalued as a mere reprinted version of its first edition which was published in 1885 (18th year of Meiji) by Kobayashi Kamenoshin. If this is true, therefore, the ‘correction/enlargement,’ so written on the title page of the Amano-Suzuki second edition (1886), has no meaning at all. However, the present author incidentally found a unique translation equivalent for ‘giraffe’ in the Amano-Suzuki dictionary (Murahata, 2021). We cannot find the equivalent in any of the English-Japanese dictionaries which have ever been published in Japan since the end of the Edo period. Comparing translation equivalents for more than 2,600 headwords in the dictionary with those in four closely related dictionaries, this paper seeks for more credible evidence to renounce the underestimation that the Amano and Suzuki dictionary is just a facsimile of the first edition and confirm the reality that the dictionary is actually a new version precious and carefully corrected and enlarged, if not drastically, by Amano and Suzuki.

キーワード：柴田昌吉・子安峻『英和字彙』系、天野為之訂正・鈴木重陽増補、『附音図解英和字彙』

## 1. はじめに

本稿の目的は、柴田昌吉・子安峻編訳／天野為之訂正・鈴木重陽増補『附音図解英和字彙』第2版、明治19(1886)年、文学社（以下、天野訂正・鈴木増補版と呼ぶ）における訂正増補

の信憑性に関する問題を検討することである。この辞書の初版は、柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』明治6(1873)年の覆刻本で(岩崎, 1935:34)、明治18(1885)年11月に翻刻出版人小林亀之進(以下、小林初版と呼ぶ)によって文学社から世に出ている。これまで英学史上においては、明治19(1886)年の天野訂正・鈴木増補版は、訂正増補と称してはいるが、内容面では柴田・子安の明治6年初版を覆刻した明治18(1885)年の小林初版(文学社)の写本であるとされてきた。しかし、筆者は、天野訂正・鈴木増補版には明治6(1873)年柴田・子安初版やその覆刻本である小林初版をはじめ、現在までわが国で刊行されている英和辞書のいずれにも認められない訳語があることを偶然にも確認した(村端, 2021)。

そこで本稿では、天野訂正・鈴木増補版、明治19(1886)年の内容を本格的に調査した上で、その道の権威者、すなわち英和辞書の代表的な研究者による先行研究で指摘されているように、この版は小林初版(明治18年、文学社)の単なる覆刻版なのか、あるいはその名の通り小林初版の訂正増補第2版であるのかを検証しようとするものである。本稿では、まず、天野訂正・鈴木増補版の成立過程と書誌的特徴、先行研究を概観した上で、1) 柴田・子安の明治6(1873)年初版(日就社)、2) その増補訂正版、明治15(1882)年(日就社)、3) 柴田・子安の明治6(1873)年初版(日就社)の覆刻本である明治18(1885)年の小林初版(文学社)、4) 明治18(1885)年小林初版(文学社)の覆刻本とされている明治19(1886)年の天野訂正・鈴木増補版(文学社)、5) 柴田・子安の明治20(1887)年、第2版再版(日就社)、これら5版の訳語(語釈)の比較対照を通して<sup>1</sup>、その異同を明らかにし、明治19(1886)年に出版された天野訂正・鈴木増補版の実相を探り、訂正増補版という名に相応しい版であるかどうか、訂正増補の信憑性を考証していく。

## 2. 天野訂正・鈴木増補版とその先行研究

### 2.1 天野訂正・鈴木増補版の成立過程と書誌的特徴

欧化主義が広まった明治10年代後半から20年代前半にかけての、いわゆる鹿鳴館時代には夥しい数の英和対訳辞書が世に出された。中でも、明治6(1873)年に出版された柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』は、出色の英和対訳辞書である(豊田, 1939: 65)。その主たる特徴は、

- 1) 図(500余)を辞書に挿入する初めての試みをしたこと<sup>2</sup>、
- 2) 原語・訳語ともに活字を使用し活版印刷機で印刷した、わが国初の英和辞書であること、
- 3) Webster 式の発音表記を採用したこと、
- 4) 訳語を「漢語であらわし、それに日本語訳をつけることによって表現」(森岡, 1969: 13)したこと、

などであり、「後の英和辞書に及ぼした影響も甚だ大きい」(豊田, 1939: 65)。数々の類書や翻刻本が東京や大阪などの出版社から多数世に出されていることが、この柴田・子安辞書が後続の辞書に与えた影響の大きさを示す1つの証左である<sup>3</sup>。

<sup>1</sup>「語釈」というのは、訳語の後に( )などで説明を加えたり具体的に言い換えたりしているものを指す。

<sup>2</sup>ただし、その図は、底本とした John Ogilvie の辞書から転用したものである(豊田, 1939: 67-68)。

<sup>3</sup>柴田・子安の辞書に多少なりとも影響を受けている辞書として、豊田(1939: 74-80)は10本を、森岡(1969: 5)は9本を列挙している。

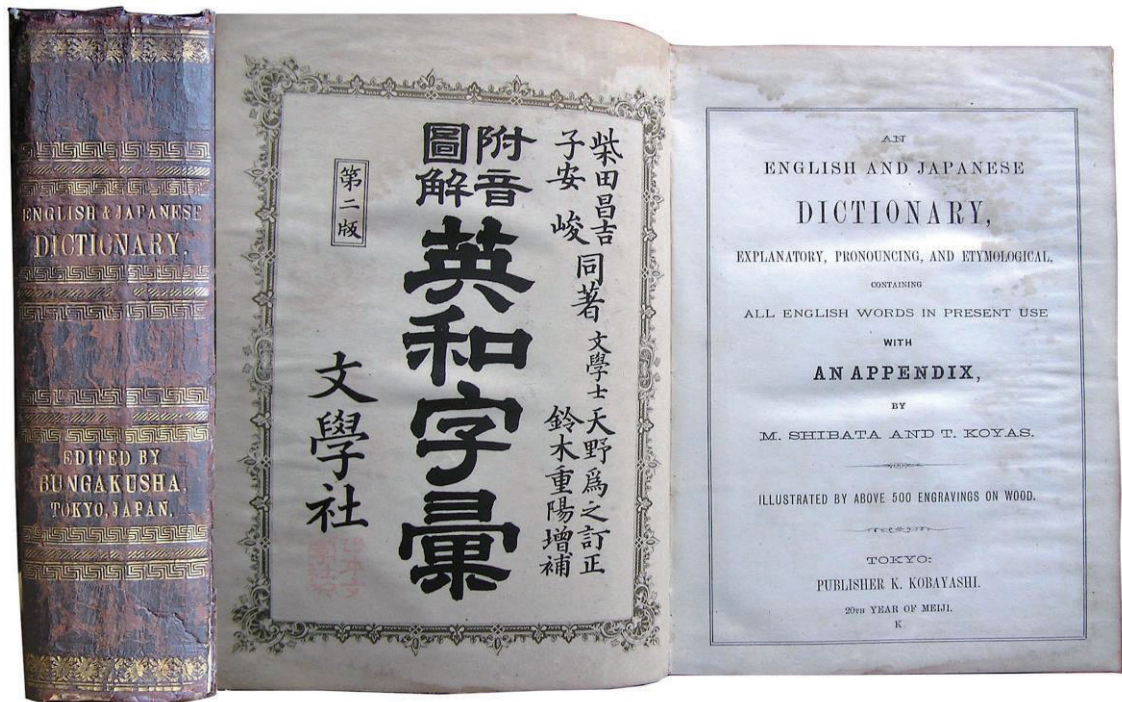


図1 明治19(1886)年天野訂正・鈴木増補版(筆者私家蔵)の背と扉

このように、柴田・子安辞書は、後に刊行される英語対訳辞書に大きな影響を与え、かつ、その需要の急増により、翻刻本も数多く出版されている。その中の1版が、小林初版、明治18(1885)年である。そして、それを訂正・増補したものが、本稿で考察する天野訂正・鈴木増補版、明治19(1886)年である。この天野訂正・鈴木増補版の書誌情報は以下の通りである。

(書誌情報)

辞書名：(和名) 附音図解 英和字彙、(英名、扉表記) An English and Japanese Dictionary, Explanatory, Pronouncing, and Etymological, Containing All English Words in Present Use with Appendix, by M. Shibata and T. Koyas. Illustrated by Above 500 Engravings on Wood. Tokyo: Publishing K. Kobayashi. 20th Year of Meiji. K.<sup>4</sup>

著者名・訂正増補者名：柴田昌吉・子安峻 文学士 天野為之訂正・鈴木重陽増補

出版地・出版社名：東京：文学社

刊行年月：明治19(1886)年7月

版次：第二版

装丁：洋装

内容内訳：1079p;6p(和英扉、緒言、音用之解、編中所用之略語)、953p(本文)、126p(附録：不規則動詞表、略語解、象形記号之解、略語之解、附音近代地名集、図解、奥付、文学社白)

<sup>4</sup> 本辞書の刊行年については、このように扉表記は‘20th Year of Meiji’と記されているが、本稿では奥付表記の「明治十九年七月出版」を採用した。

活字寸：漢字 2mm （柴田・子安増補訂正第 2 版、明治 15 (1882) は 4mm）

ページレイアウト：2 段組み、明治 18 年小林初版と同様に字下げ（インデント）揃え方式による訳字印字（明治 15 年柴田・子安増補訂正第 2 版、明治 15 (1882) では訳字は字下げせず原語と詰めて印字）

筐体外寸：25.3cm x 18.0cm x 7.8cm

なお、巻頭の「緒言」「音用之解」「編中所用之略語」は、明治 6 (1873) 年柴田・子安初版をそのまま写し取っている。図の扱いは、明治 6 (1873) 年柴田・子安初版と異なり、本文中の図はすべて省略している。一方、巻末の図は、明治 6 (1873) 年柴田・子安初版のそれを引き継いでいる。

明治 19 (1886) 年天野・鈴木訂正増補版には、奥付の裏面に「文学社白」として以下の出版元の宣伝文が掲載されている。この宣伝文は、明治 18 (1885) 年小林版にはみえないが、初版およびこの訂正増補版を出版するに至った経緯を記したものである。

東京専門学校講師 文学士天野為之先生訂正

第一高等学校兼東京府中学校教師鈴木重陽先生増補

訂正増補 附音図解 英和字彙 第二版 價金三円八十銭

近來英和对訳字書ノ類各種出版アリト雖モ就中先年日就社ヨリ出版セシ英和字彙ノ如ク字数ノ多ク訳字ノ適當ナルモノハ未ダ曾テ聞カザル処ナレトモ（該書本版ノ改正ト称フルモノハ訳字頗ル高尚ヲ極メ且植字ノ漢洋入組タルヲ以テ却テ不便トスルモノ多ク加之其價十二円ノ上ニ登レリ）如何セン價ノ不廉ニシテ限リアル学資金ノ内ヨリ購求スルニ困ムノ事情モアルベシ弊社嚮キニ予約法ヲ以テ一千部ヲ限リ左ノ非常廉価ヲ以テ出版ニ着手セシ際陸續加名アリシ為メ不得止遂ニ数千部ノ多キヲ印刷スルニ至レリ然ルニ今ハ之ヲ悉皆売尽セルガ故ニ茲ニ又専門学校講師天野為之君ノ精密ナル訂正ト第一高等学校教師鈴木重陽君ノ入念ナル増補トニヨリテ実ニ明治十九年六月新編セシ完備無欠ノ良書ト同シキヲ得タリ價ハ従前ノ儘ニテ発売ス江湖ノ学生諸君幸ニ愛覧ヲ玉ヘ

明治十九年第七月

東京

文学社白

（傍点は原著者）

この宣伝文の要点は、以下の 3 点である。

- 1) 柴田・子安英和字彙の改正本<sup>5</sup>は訳字が高尚すぎるうえ、訳語（漢字）を字下げ（インデント）しないで原語と活字を詰めて組んでいる<sup>6</sup>のでかえって読みにくくなっている。
- 2) 柴田・子安の改正本は、高価で 12 円もするので、限りある学資のことを思えば、より廉価の辞書が必要である。

<sup>5</sup> 明治 15 (1882) 年柴田・子安増補訂正第 2 版のことを指していると思われる。

<sup>6</sup> ページ数をできるだけ少なく押さえるための印刷手段である。



- 3) そのため、廉価本（明治 18 (1885) 年小林初版）を予約販売したところ、千部の刊行を予定していたが遂に数千部を印刷することになり、それもすべて売り尽くした。そこで、天野・鈴木の両氏による訂正増補版を小林初版と同じ価格（3 円 80 銭）で刊行する運びとなった。

## 2.2 先行研究

このような書誌的特徴をもつ天野訂正・鈴木増補、明治 19 (1886) 年再版であるが、これまで英学史上では、内容的には明治 6 (1873) 年の『英和字彙』と同一で、「訂正増補といふのは意味をなさない」（豊田, 1939:74）とされてきた。この豊田 (1939) の書評を踏襲したのか、早川 (2006) も、「訂正とあるが文学社版 [M.18] をほぼそのまま再版」（p. 45）であると断じている。さらに、柴田・子安『英和字彙』の古典的研究とされる岩崎 (1935) は、柴田・子安『附音挿図英和字彙』明治 6 (1873) 年初版は、その増補訂正版が出た明治 15 (1882) 年以後に覆刻本が数種流布し、天野訂正・鈴木増補版もその 1 つとした上で、次のように述べている。

此処に一言したい事は訂正増補と云ふ語の意味である。上述の天野訂正、鈴木増補と称する文学社第二版は同社十八年版の facsimile に過ぎず、更に私の調べた処では整版、挿図の排列に於てこそ明治六年の日就社原版と多少の相違はあれ、その内容に至つては二者全く同一である。（pp. 35-36）

岩崎 (1935) は、「私の調べた処では」と述べており、どの程度調査したかは定かでないが、確かに冒頭部の 2 頁（‘A, the first letter of the English Alphabet’ から ‘Abiectness’）の 92 の見出し語についての訳語、語釈を比較してみると、訂正増補が施されているのは以下の 2 項目のみである。

- (1) A 1, a ship of the first class.

小林初版、明治 18 年

ダイイチバン フ子 ウケアヒナカマ コトバ  
「第一等ノ船（保険社中ノ語）」

天野訂正・鈴木増補版、明治 19 年

ダイイチバン フ子 ウケアヒナカ  
「第一等ノ船（保険社中ノ\_\_）」

- (2) Aard-vark, n.

小林初版、明治 18 年

ケモノノナ  
「獣名」

天野訂正・鈴木増補版、明治 19 年

アリクヒ  
「食蟻獣」

(1) ‘A 1, a ship of the first class.’ について、小林版の語釈中の「語」が天野訂正・鈴木増補版では削除され、その箇所は空白になっている。一方、(2) ‘Aard-vark, n.’ については、小林版の上位訳語の「獣名」が天野訂正・鈴木増補版では具体的な動物を指す訳語の「食蟻獣」に訂正されている。

このように、仮に岩崎が冒頭部のみを一瞥的に閲覧・検討した程度であれば、これらの箇所を見逃して、この明治 19 (1886) 年天野訂正・鈴木増補『英和字彙』（文学社）は、ほとんど訂正増補の意味をなさず、「写し取られて複製されたもの」と判断しても不思議ではない。そして、訂正増補としながらも、他の辞書ならともかく、同じ辞書に増訂版があるにもかかわらず、なぜ旧版を選択したのか、その心理が理解できないとして岩崎 (1935) はこう述べている。

他の種の著書ならば兎も角、同じ辞書の増訂版が手に入る処を態々内容の劣つた旧版が歓迎される心理が解らないが、是は原版、増訂版とは比較にならぬ廉価であつた為かもしれない。

ここでいう旧版（原版）というのは明治6(1873)年柴田・子安初版のことで、増訂版というのは明治15(1882)年柴田・子安増訂第2版を指していることは明らかである。旧版（原版）と内容的に同じ辞書を出版しようとしたのは、価格にあった可能性があるとして岩崎は指摘しているのである。実際に、それぞれの定価を比べると以下の通りである<sup>7</sup>。

- |   |                        |
|---|------------------------|
| ①柴田・子安『附音挿図英和字彙』明治6(1873)年                | 【8円】                   |
| ②柴田・子安『増補訂正英和字彙』第2版、明治15(1882)年           | 【12円50銭】               |
| ③柴田・子安『附音図解英和字彙』明治18(1885)年、小林版           | 【3円80銭】                |
| ④柴田・子安／天野訂正・鈴木増補『附音図解英和字彙』第2版、明治19(1886)年 | 【3円80銭】                |
| ⑤柴田・子安『増補訂正英和字彙』第2版再版、明治20(1887)年         | 【12円50銭 <sup>8</sup> 】 |

一目瞭然ながら、③④の版は、柴田・子安の原版、第2版の価格からすると、2分の1あるは3分の1足らずであったことがわかる。それゆえ、世に歓迎されたのは、価格であつて辞書の内容によるものではないと岩崎(1935)が推察するのは無理からぬことである<sup>9</sup>。

このように、これまでの英学史においては、岩崎(1935)や豊田(1939)などの権威をはじめ、天野訂正・鈴木増補版の評価は決して高くない。しかし、筆者は、同版には他に類を見ない訳語があることを偶然ながら見出した(村端, 2021)。それは、‘giraffe’に対する「<sup>リンレイ</sup>麟類」という訳語である。「麒麟の類」あるいは「雌の麒麟の類」という意味であろうか。いずれにしても、‘giraffe’に対する第2訳語ながら「<sup>リンレイ</sup>麟類」という訳語を与えている辞書は以下の柴田・子安系辞書に限らず、現今までの英和対訳辞書においては皆無である<sup>10</sup>。ちなみに、柴田・子安系の辞書における‘giraffe’に対する訳語、語釈をみてみよう。なお、現在では、ほとんど廃語

<sup>7</sup> ①③の定価(岩崎, 1935)以外は、各辞書の奥付などに記されているものによつた。

<sup>8</sup> ただし特別予約価は4円80銭だったようである(岩崎, 1935:40)。

<sup>9</sup> なお、天野訂正・鈴木増補『英和字彙』には、天野訂正・鈴木増補『附音図解英和字彙』明治20(1887)年、大阪・同盟書房と天野訂正・鈴木増補『附音図解英和字彙』明治20(1887)年、大阪・中川勘助等の異板も出版されている。早川(2006:46)によれば、これらは、いずれも文学社の明治18(1885)年の翻刻であるとされているが、筆者の管見(国立国会図書館蔵)では、前者の大阪・同盟書房は、その内容(訳語、訳解)から判断すると、天野訂正・鈴木増補版(文学社、明治19(1886)年)の翻刻である。なお、早川(2006)は、これら2本を異板と判断しているようであるが、前者の扉には「同盟書房」と、奥付には「反刻人 中川勘助 同浜本伊三郎 同岡本仙助 同北島長吉」とあることから、これら2本は同一版とも考えられるが確認する方法はない。また、大阪女子大学附属図書館(1962)は、同盟書房版(明治20(1887)年)について、本辞書は柴田・子安初版(明治6(1873)年)の翻刻である(p.691)としている。また、「もっとも『附音挿図英和字彙』は大いに世に迎えられたためか、東京でも明治18年以後二三度翻刻されていて、本書も直接には明治18年11月東京翻刻の『附音図解英和字彙』からのまたの翻刻らしいのだが(『英学史』による)」(p.692)とも述べており、豊田(1939)の『日本英学史の研究』を典拠に、この同盟書房版は、柴田・子安初版(明治6(1873)年)を直接に翻刻したものではなく、小林版(文学社、明治18(1885)年)を経由した翻刻であるとみている。いずれにしても、同盟書房版(明治20(1887)年)が内容的には訂正増補された明治19(1886)年の天野訂正・鈴木増補版と同じであり、柴田・子安初版あるいは小林版(文学社)をそのまま写した辞書ではないことをこのような大阪女子大学附属図書館(1962)の解題から読み取ることはできない。

となっている ‘Camelopard’<sup>11</sup> という語も当時は「キリン」にあてる語として使われていたので、それも併記することとする。

- ①柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』明治6(1873)年1月、日就社

Camelopard, n.

駝馬 (図) 獣類中ニテ最モ長高キ獣ナリ木葉幼枝ヲ食ス

Giraffe, n.

豹駝

- ②柴田昌吉・子安峻『増補訂正英和字彙』第2版、明治15(1882)年8月、日就社(①の増補訂正版)

Camelopard, n.

駝馬 (図) 獣類中最モ長高キ者ニシテ支那人ノ所謂麒麟ニ似タリ木葉幼枝ヲ食トス

Giraffe, n.

豹駝、“𪛇拉啡”

- ③柴田昌吉・子安峻『附音図解英和字彙』明治18(1885)年11月、翻刻出版人小林亀之進、文学社(①の翻刻本)

Camelopard, n.

駝馬 [図] 獣類中ニテ最モ長高キ獣ナリ木葉幼枝ヲ食ス [巻末]

Giraffe, n.

豹駝

- ④柴田昌吉・子安峻原編訳／天野為之訂正・鈴木重陽増補『附音図解英和字彙』第2版、明治19(1886)年7月、翻刻出版人小林亀之進、文学社(扉は「20th Year of Meiji」、③の訂正増補版)

Camelopard, n.

駝馬 [図] 獣類中ニテ最モ長高キ獣ナリ木葉幼枝ヲ食ス [巻末]

Giraffe, n.

豹駝、麟類

- ⑤柴田昌吉・子安峻『増補訂正英和字彙』第2版再版、明治20(1887)年5月、横浜：日就社(②の再版)

Camelopard, n.

駝馬 (図) 獣類中最モ長高キ者ニシテ支那人ノ所謂麒麟ニ似タリ木葉幼枝ヲ食トス

Giraffe, n.

豹駝、ギラツフ

<sup>10</sup> ただし、明治21(1888)年に刊行された柴田昌吉・子安峻編訳／栗野忠雄増訳・坪井九馬三校閲『附音挿図増補英和字彙』東京：中村順三郎でも ‘giraffe’ の訳語として「麟類」の字がみえる。そこでこの辞書の訳語と柴田昌吉・子安峻の原著(明治6(1873)年初版)の訳語と天野訂正・鈴木増補版の2つの訳語を比較してみると、天野訂正・鈴木増補版のそれと一致することがわかった。今後の本格的な調査を待たなければ結論は出せないが、栗野増訳・坪井校閲本は、緒言にあるように、採録語数は Webster 大辞書から1万語程度増補しているものの、訳語については訂正増補を行った天野訂正・鈴木増補版を写し取ったか、かなりの程度参考にした可能性が高い。

<sup>11</sup> ‘Camelopard’ という語は、ギリシャ語由来の ‘camel’ と ‘leopard’ の合成語である。詳しくは、村端(2021)を参照されたい。

‘Giraffe’ の第 1 の訳語は「豹駝（ヒョウダ）」ですべて一致している。一方、第 2 の訳語を示しているのは②と④と⑤で、②と⑤の「<sup>ギラッ</sup>啡」という音訳は特徴的である。しかしながら、④の天野訂正・鈴木増補版の「<sup>リンルイ</sup>麟類」も同系の他版にはみられない訳語であることは紛れもない事実である。したがって、岩崎 (1935) のように、天野訂正・鈴木増補第 2 版は明治 18 (1885) 年小林初版<sup>12</sup>の単なるファクシミリ本（写本）であると断じてしまうのは正確さを欠くことになる。

そこで本稿では、天野訂正・鈴木増補版の、いわゆる「訂正・増補」の信憑性を確認するため、同辞書の冒頭部、A 項の全見出し語の訳語（語釈）を柴田・子安初版（明治 6 (1873) 年）、第 2 版（明治 15 (1882) 年）、小林初版（明治 18 (1886) 年）、柴田・子安増補訂正第 2 版（明治 20 (1887) 年）のそれぞれと比較して、その特徴を明らかにしていくこととする。

### 3. 天野・鈴木訂正増補版における訂正増補の実相

#### 3.1 小林初版と天野訂正・鈴木増補版における訳語（語釈）の異同

A 項の総見出し語数は、小林初版および天野訂正・鈴木増補版のいずれの辞書も 2,609 語であった。このことから、その他の項においても採録した見出し語数は両辞書とも同数としてもよいだろう。したがって、もしこのことが事実であるとすれば、「鈴木増補」というのは、見出し語を増補したものではなく、訳語（語釈）を増補したものと考えられる。

表 1 は、両辞書における A 項の見出し語に対する訳語（語釈）に異同のあった見出し語数を品詞別に示したものである。訳語（語釈）が訂正増補された見出し語の総数は 54 語であった。したがって、訂正増補の割合（54/2,609）は 2.1% である。明治 6 (1873) 年柴田・子安初版の総採録語数は約 5 万 5 千と言われているので<sup>13</sup>、単純に比例計算すれば、天野訂正・鈴木増補版において、辞書全体では、約 1,150 見出し語について新しい訳語（語釈）が加えられていることになる。この数字を多いとするか少ないとするかは諸賢の判断に委ねるとしても、天野訂正・鈴木増補版は、単に小林初版を写し取ったものと断言するのは正確さを欠くと言えるだろう。

表 1 A 項（総見出し語数 2,609 語）における小林初版にはみられない訳語（語釈）を含む天野訂正・鈴木増補版の見出し語数（総数と品詞別数）

品詞	訂正増補数 (%)	備 考
n. (名詞)	43 (79.63)	見出し語 ‘A1’ には品詞の標示はないが、訳語等から「n. 名詞」に分類
a. (形容詞)	9 (16.67)	
adv. (副詞)	1 (1.85)	
vt. (他動詞)	1 (1.85)	
総数	54 (100)	

<sup>12</sup> この明治 18 (1885) 年小林初版本は、表 2 の比較内容からも判然とするように、明治 6 (1873) 年柴田・子安初版のファクシミリ（写）版と認めて差し支えないだろう。

<sup>13</sup> 巻頭の「緒言」によれば、明治 6 (1873) 年柴田・子安初版の採録語数は約 5 万 5 千である。



次に、異同のあった見出し語を品詞別にみると、名詞が43見出し語で、約8割(79.63%)を占めている。次いで、形容詞の9見出し語で、約17%(16.67%)である。その他は、副詞と他動詞がそれぞれ1見出し語で、約2%(1.85%)である。先行する親辞書を訂正・増補する場合、どの品詞が多く訂正・増補されるかについての研究は未見のため、その傾向についての知見は持ち合わせていないが、少なくとも天野訂正・鈴木増補版の場合には、名詞の訳語(語釈)が圧倒的に多く増訂を受けている。

### 3.2 柴田・子安『英和字彙』系5版における訳語(語釈)の異同

では具体的に、柴田・子安『英和字彙』系の5版において、③小林初版の訳語(語釈)が④天野訂正・鈴木増補版で訂正・増補された54の見出し語に対して、それぞれどのような訳語(語釈)が与えられているのだろうか。表2はその結果を示したものである。

表2 柴田・子安『英和字彙』系5版において、天野訂正・鈴木増補版で異同のあったA項見出し語に対する訳語(語釈)の実相

	① 柴田・子安 初版(日就社)、明治6 (1873)年	② 柴田・子安 増補訂正第2 版(日就社)、 明治15(1882) 年	③ 柴田・子安 編訳/小林初版 (文学社)、明 治18(1885)年	④ 柴田・子安 編訳/天野訂 正・鈴木増補版 (文学社)、明 治19(1886)年	⑤ 柴田・子安 増補訂正第2版 再版(日就社) 明治20(1887) 年
A1, a ship of the first class	ダイイチバン フネ 第一等ノ船 ウケアヒナカマ (保険社中ノ コトバ 語)	第一等ノ船(保 險社中ノ語)	ダイイチバン フネ 第一等ノ船 ウケアヒナカマ (保険社中ノ コトバ 語)	ダイイチバン フネ 第一等ノ船 ウケアヒナカマ ( <u>保険社中</u> <u>ノ</u> )	ダイイチバン フネ 第一等ノ船 ウケアヒナカマ (保険社中ノ コトバ 語)
Aard-vark, n.	ケモノノナ 獣名 コノケモノ (図)此獣 アフリカ 亜非利加ノ ミナミテ サン 南部ニ産シ ソノカタチヤムブタ 其形稍彘ニ ニ アシミジカク 似テ足短ク アナズマイ ツ子 穴居シテ常 アリ ショク ニ蟻ヲ食ス	食蟻獣 (図)此獣亞非 利加ノ南部ニ産 ス其形稍彘ニ似 テ足短ク穴居シ テ常ニ蟻ヲ食フ	ケモノノナ 獣名 (図)此獣ハ亞 非利加ノ南部ニ 産ス其形稍彘ニ 似タリ足短ク穴 居シテ蟻ヲ食フ [巻末]	アリクヒ 食蟻獣 (図)此獣ハ亞 非利加ノ南部ニ 産ス其形稍彘ニ 似タリ足短ク穴 居シテ蟻ヲ食フ [巻末]	食蟻獣 コノケモノ (図)此獣 アフリカ 亜非利加ノ ミナミテ サン 南部ニ産ス ソノカタチヤムブタ 其形稍彘ニ ニ アシミジカク 似テ足短ク アナズマイ ツ子 穴居シテ常 アリ クラ ニ蟻ヲ食フ
Academy, n.	中学校、 センモンクハノガクカウ 専門科学学校 Military Academy. ヘイガクカウ 兵学校	中学校、専門科 学校 Military Academy. 兵学 校	中学校、 センモンクハノガクカウ 専門科学学校 Military Academy ヘイガクカウ 兵学校	中学校、 センモンガツカウ <u>専門学校</u> Military Academy リクダンガツカウ <u>陸軍学校</u>	中学校、大学 校、 センモンクハノガクカウ 専門科学学校 Military Academy. ヘイガクカウ 兵学校

Address, n.	テイシヨ 呈書、対話、 陳、技巧、 サトキョー レイギ 鋭敏、礼貌 アテナ 、書信ノ充名	呈書、対話、面 陳、技巧、鋭 敏、書信ノ アテナ 充名、称呼	テイシヨ 呈書、対話、 陳、技巧、 サトキョー レイギ 鋭敏、礼貌、 アテナ 書信ノ充名	テイシヨ 呈書、対話、 面陳、技巧、 サトキョー レイギ 鋭敏、礼貌、 アテナ 書信ノ充名、 エンゼツ 演舌	テイシヨ 呈書、対話、 面陳、技巧、 サトサ レイギ 鋭敏、礼貌、書 アテナ トナエ 信ノ充名、称呼
Adieu, n.	ワカレ コトバ 告別ノ 辞	告別ノ 辞	ワカレ コトバ 告別ノ 辞	ワカレ コトバ 告別ノ 辞 (サ ヨナラ、御機嫌 ヨ一)	ワカレ コトバ 告別ノ 辞
Administration, n.	施行、指揮、 管理、管轄、 カウハフクワン 行法官	施行、指揮、管 理、管轄、 カウハフクワン 行法官、執政 者、内政	施行、指揮、管 理、管轄、 カウハフクワン 行法官	施行、指揮、管 理、管轄、 カウハフクワン 行法官、 <u>施 政、政行</u>	シカウ 施行、指揮、管 理、管轄、 カウハフクワン 行法官、 マツリゴトヲトルヒト 執 政 者、 ナイセイ 内政
Administrative, a.	管轄ノ、管理 ノ	管轄ノ、管理ノ	管轄ノ、管理ノ	管轄ノ、管理 ノ、 <u>行政ノ、施 政ノ</u>	管轄ノ、管理ノ
Admittance, n. No admittance	イルヲユルサズ 不 許 人	入ルヲ許サズ	イルヲユルサズ 不 許 人	イルヲユルサズ 不 許 人、 <u>無用 ノ者入ルベカラ ズ</u>	入ルヲ許サズ
Advocateship, n.	状師ノ ヤクメ 職	状師ノ 職	状師ノ ヤクメ 職	状師ノ 職、 <u>代 言職</u>	状師ノ ヤクメ 職
Affinity, n.	シンル井 イチモン 親戚、一門、 シンワリヨク 親和力	親戚、一門、親 和力、互相感 応、異性婚姻 (世態学ノ語)	シンル井 イチモン 親戚、一門、 シンワリヨク 親和力	シンル井 イチモン 親戚、一門、 シンワリヨク 親和力、 イセイコンイン <u>異性婚姻</u>	シンル井 イチモン 親戚、一門、 シンワリヨク 親和力、 ゴサウカンオウ 互相感応、 イセイコンイン 異性婚姻 セイタイガク (世態学ノ コトバ 語)
Affirmative, a.	確定ノ、応諾 ノ	確定ノ、応諾 ノ、説正ノ、正 面ノ	確定ノ、応諾ノ	確定ノ、応諾 ノ、 <u>正面ノ</u>	確定ノ、応諾 ノ、 <u>セツセイ 説正ノ</u> 、 シヤウメン 正 面ノ
Affirmative, n.	定説、保證、 応諾	定説、保證、応 諾	定説、保證、応 諾	定説、保證、応 諾、 <u>正面</u>	定説、保證、応 諾
Agent, n.	ダイニン 代理者、 サハイニン 管事者	代理者、管事 者、作因	ダイニン 代理者、サハイニン 管事者	ダイニン 代理者、 サハイニン 管事者、 <u>ハタラクテ 作 因</u>	ダイニン 代理者、 サハイニン 管事者、 <u>サイン</u> 管事者、作因
Agglutivative, a.	粘糊ノ、膠粘 ノ	粘緊ノ、膠粘ノ	粘糊ノ、膠粘ノ	粘糊ノ、膠粘 ノ、 <u>連合ノ</u>	粘糊ノ、 <u>子バリツキ 膠 粘</u> ノ
Aggregate, n.	アツメ シメダカ 聚合、総数	聚合、総数、合 数、叢會	アツメ シメダカ 聚合、総数	アツメ シメダカ 聚合、総数、 アツマリ <u>叢會</u>	アツメ シメダカ 聚合、総数、 アツマリ 合数、叢會

Agreement, n.	ガツタイ ケイヤク 合同、契約、 ヤクシヨ 約書、符合、 ワボク 和睦	合同、契約、約 書、約、結約、 符合、和睦、同 意、投合、協 和、一致	ガツタイ ケイヤク 合同、契約、 ヤクシヨ 約書、符合、 ワボク 和睦	ガツタイ ケイヤク 合同、契約、 ヤクシヨ 約書、符合、 ワボク イツチ 和睦、一致	ガツタイ ケイヤク 合同、契約、 ヤクシヨ 約書、約、 ヤクソクスル <sup>1</sup> 結 約、符 合、和睦、 ワボク 同意、投合、 ケフワ イツチ 協和、一致
Agriculture, n.	カシヨク 稼穡、農事、 耕植 Board of Agriculture シノウキヨク 司農局	稼穡、農業、 耕種 Board of Agriculture 農 務局	カシヨク 稼穡、農事、耕 植 Board of Agriculture シノウキヨク 司農局	カシヨク 稼穡、農事、耕 植、 <sup>ギヤウ</sup> 農業、 シノウキヨク 司農局、 <sup>ニシヨク</sup> 農務局	カシヨク 稼穡、農事、 耕植 Board of Agriculture 農 務局
Alcohol, n.	シユセイ 酒精	醇、酒精、“亞 爾箇保兒”	シユセイ 酒精	シユセイ 酒精、 アルコール 亞爾箇保兒、 ジュン 醇	スミザケ シユセイ 醇、酒精、 アルコール “亞爾箇保兒”
Alcoholic, a.	シユセイ 酒精ノ	同上ノ	シユセイ 酒精ノ	シユセイ 酒精ノ、 <sup>ニシヨク</sup> 亞爾箇 保兒	ドウジャウ 同上ノ
Algebra, n.	デンザン 点竄	代数学、点竄	デンザン 点竄	デンザン <sup>ダイスウ</sup> 点竄、代数	ダイスウガク デンザン 代数学、点竄
Algebraic, a.	デンザン 点竄ノ	Algebraical 代 数学ノ、点竄ノ Algebraic curve 代数曲 線（縦横相連続 スルノ理ヲ代数 ニテ顯シ得ル所 ノ曲線）	デンザン 点竄ノ	デンザン <sup>ダイスウ</sup> 点竄ノ、代数ノ	Algebraical 代 数学ノ、点竄ノ Algebraic curve ダイスウキョクセン 代数曲線 （縦 横 相連続スルノ 理ヲ代数ニテ アラワ トコロ 表シ得ル所 ノ曲線）
Algebraically, adv.	点竄ニテ	代数学ニテ	点竄ニテ	点竄ニテ、 <sup>ニテ</sup> 代数 ニテ	代数学ニテ
Algebraist, n.	点竄家	代数学者、点竄 者	点竄家	点竄家、 <sup>ダイスウ</sup> 代数家	ダイスウガクシヤ 代数学者、 デンザンシヤ 点竄者
Amaranth, n.	ゲイトウダ 鶏冠花	鶏冠花、雁来紅	ゲイトウダ 鶏冠花	ゲイトウダ 鶏冠花、雁来紅	ゲイトウダ ハダイトウ 鶏冠花、雁来紅
Amateur, n.	ドクガクシヤ 独学者	独学者	ドクガクシヤ 独学者	ドクガクシヤ <sup>ギジュツ</sup> 独学者、技術 ヲ好ム人	ドクガクシヤ 独学者
Ambassador, n.	コクシ 国使、 トクメイゼンケンコウシ 特命全權公使	国使、特命全權 公使、大使、欽 差	コクシ 国使、 トクメイゼンケンコウシ 特命全權公使	コクシ 国使、 トクメイゼンケンコウシ 特命全權公使、 <sup>タイシ</sup> 大使、欽差	コクシ 国使、 トクメイゼンケンコウシ 特命全權公使、 タイシ キンサ 大使、欽差
Ambiguity, n.	フシン アイマイ 不審、曖昧、 イチヂリヤウイ 一字両意	不審、曖昧、一 字両意、汎意、 相関ノ意	フシン アイマイ 不審、曖昧、 イチヂリヤウイ 一字両意	フシン アイマイ 不審、曖昧、 イチヂリヤウイ 一字両意、 <sup>フツノイミアル</sup> 汎意、 相関ノ意	フシン アイマイ 不審、曖昧、 イチヂリヤウイ 一字両意、 ヒロキイミ 汎意、 フツノイミアル <sup>1</sup> 相関ノ意
Ambition, n.	タイマウ ナトリ 大望、貧名、	大望、志向、貧	タイマウ ナトリ 大望、貧名、	タイマウ ナトリ 大望、貧名、	タイマウ シコウ 大望、志向、

	イバリ 慕勢	名、慕勢、功名心、驕誇	イバリ 慕勢	イバリ 慕勢、功名心、志向	ナトリ イバリ 貧名、慕勢、功名心、驕誇
Analects, n.	ブンシウ 文集	文集、語録	ブンシウ 文集	ブンシウ ゴロク 文集、語録	ブンシウ ゴロク 文集、語録
Analogue, n.	モノ 相似ノ物、オナジイミ コトバ 同義ノ語	類似ノ物、同義ノ語、異体同功（生物学ニ云）異物同名（論法ニ云）	モノ 相似ノ物、オナジイミ コトバ 同義ノ語	モノ 相似ノ物、同義ノ語、異体同功	類似ノ物、同義ノ語、異体同功（生物学ニ云）異物同名（論法ニ云）
Anchoret, Anchorite, n.	トンセイジャ インジャ ダウシ 遁世者、隠士、道士	遁世者、隠士、道士、仙人	トンセイジャ インジャ ダウシ 遁世者、隠士、道士	トンセイジャ インジャ ダウシ センニン 遁世者、隠士、道士、仙人	トンセイジャ インジャ ダウシ センニン 遁世者、隠士、道士、仙人
Annihilation, n.	ナクナシ ホロビ 滅絶、滅亡	滅絶、滅亡、成空、帰無	ナクナシ ホロビ 滅絶、滅亡	ナクナシ ホロビ セイタク キム 滅絶、滅亡、成空、帰無	ナクナシ ホロビ セイタク キム 滅絶、滅亡、成空、帰無
Antagonism, n.	アラソヒ タテツキ サカラヒ 相争、抵抗、悖逆	相争、抵抗、悖逆、反動、反対論	アラソヒ タテツキ サカラヒ 相争、抵抗、悖逆	アラソヒ タテツキ サカラヒ ハンタイロン 相争、抵抗、悖逆、反対論	アラソヒ タテツキ サカラヒ ハンドウ ハンタイロン 相争、抵抗、悖逆、反動、反対論
Antecedent, n.	サキダチモノ メイシ ブンバウ 先行物、先行名詞（文法ノ語）	先行物、先行名詞（文法ノ語）、先率（数学ニ云）、前項（論理ニ云）	サキダチモノ メイシ ブンバウ 先行物、先行名詞（文法ノ語）	サキダチモノ メイシ ブンバウ ゴ センゴウ ロンリ 先行物、先行名詞（文法ノ語）、前項（論理ノ語）	サキダチモノ センカウ メイシ ブンバウ コトバ センリツ スウガク イフ ロンリ 先行物、先行名詞（文法ノ語）、先率（数学ニ云）、前項（論理ニ云）
Aphorism, n.	コトワザ ヨウゴ イマシメ 諺語、要語、教戒ノ語	諺語、要語、法則、教戒ノ語、箴言、金言	コトワザ ヨウゴ イマシメ 諺語、要語、教戒ノ語	コトワザ ヨウゴ イマシメ キンゲン 諺語、要語、教戒ノ語、金言	コトワザ ヨウゴ イマシメ シンゲン 諺語、要語、法則、教戒ノ語、箴言、金言
Appealable, a.	越訴スベキ	上告スベキ	越訴スベキ	越訴スベキ、上告スベキ	上告スベキ
Appearance, n.	アラハレ カタチ 現出、形容、相貌、アリサマ 形勢、出頭、ミナリ カホイロ 態度、面色、グワイケイ 外形	出現、形容、相貌、形勢、情状、模様、光景、出頭、態度、面色、外形、外観、外見、容観	アラハレ カタチ 現出、形容、相貌、形勢、出頭、ミナリ カホイロ グワイケイ 態度、面色、外形	アラハレ カタチ 現出、形容、相貌、形勢、出頭、ミナリ カホイロ グワイケイ 態度、面色、外形、外見	アラハレ カタチ 現出、形容、相貌、形勢、情状、模様、光景、出頭、ミナリ カホイロ グワイケイ 態度、面色、外形、外観、外見、容観
Appellate, a.	上裁判ノ、越訴ノ	上等裁判ノ、上告ノ	上裁判ノ、越訴ノ	上裁判ノ、越訴ノ、上告ノ	上等裁判ノ、上告ノ
Appendix, n.	ツケコト ホ 井 ツ井ロク 附言、補遺、追録	附言、補遺、追録、附加 Appendix auricule 心耳 Appendix	ツケコト ホ 井 ツ井ロク 附言、補遺、追録	ツケコト ホ 井 ツ井ロク 附言、補遺、追録、附録	ツケコト ホ 井 ツ井ロク 附言、補遺、追録、附加、 <u>附録</u> Appendix auricule 心耳 Appendix



		vermiformis 虫様垂			vermiformis チュウギョウス井 虫様垂
Application, n.	使用、願望、 請求、専務、 注心、勉強、 適用、貼置	使用、願望、請 求、専務、注 心、勉強、適 用、応用、貼附	使用、願望、請 求、専務、 注心、勉強、適 用、貼置	使用、願望、請 求、専務、 注心、勉強、適 用、貼置、 <u>応用</u>	使用、願望、 請求、専務、 注心、勉強、適 用、応用、 貼附
Apprentice, n.	デシコ シダフニン 徒弟、修行人	徒弟、修行人、 学徒	デシコ シダフニン 徒弟、修行人	デシコ シダフニン 徒弟、修行人、 <u>年期奉公人</u>	デシコ シダフニン 徒弟、修行人、 ガクト 学徒
Approbation, n.	ウケガヒ ウケヒキ 応諾、承引、 嘉納、称誉、 適意、准許	応諾、承引、准 許、嘉納、称 誉、褒揚、讃 美、適意	ウケガヒ ウケヒキ 応諾、承引、 嘉納、称誉、 適意、准許	ウケガヒ ウケヒキ 応諾、承引、 嘉納、称誉、 適意、准許、 <u>褒揚</u>	ウケガヒ ウケヒキ 応諾、承引、 嘉納、称誉、褒 揚、讃美、適意
Aqueduct, n.	ミゾ ウメドヒ 溝渠、隠溝	溝渠、隠溝、輸 水管、導水槽 Aqueduct cechlee 蝸牛殻 輸水管 Aqueduct sylvy 脳ノ第三 穴ト第四穴ト通 ズル管 Aqueduct vestibuli 前庭 水道	ミゾ ウメドヒ 溝渠、隠溝	ミゾ ウメドヒ 溝渠、隠溝、 <u>水道</u>	ミゾ ウメドヒ 溝渠、隠溝、 輸水管、 導水槽 Aqueduct cechlee クラギウコクニス井クワン 蝸牛殻輸水管 Aqueduct sylvy ナウ ダイサンノアナ 脳ノ第三穴ト 第四穴ト通ズ ル管 Aqueduct vestibuli マエニワノス井ダウ 前庭水道
Arbitrator, n.	ハンジャ 判者 ソシヤウケツダン (訴訟決断ノ タメ サウハウ 為ニ双方ヨリ 被撰タル人) チウニン シュサイ 中人、主宰、 センケンシヤ 専権者	判訴者(訴訟決 断ノ為ニ双方ヨ リ選バレタル 人) 中人、公 親、主宰、専権 者	ハンジャ 判者 ソシヤウケツダン (訴訟決断ノ タメ サウハウ 為ニ双方ヨリ 被撰タル人) チウニン シュサイ 中人、主宰、 センケンシヤ 専権者	ハンジャ 判者 ソシヤウケツダン (訴訟決断ノ タメ サウハウ 為ニ双方ヨリ 被撰タル人) チウニン シュサイ 中人、主宰、 センケンシヤ 専権者、 <u>中裁人</u>	ハンシヨウウシヤ 判訴者 ソシヤウケツダン (訴訟決断ノ タメ サウハウ 為ニ双方ヨリ 被撰タル 人) 中人、 センケンシヤ 主宰、専権者
Architectural, a.	造営学ノ	造営学ノ、建築 術ノ	造営学ノ	造営学ノ、 <u>建築 学ノ</u>	造営学ノ、建築 術ノ
Architecture, n.	造営学	造営学、建築術	造営学	造営学、 <u>建築学</u>	ザウエイガク 造営学、建築 術
Argumentation, n.	弁論、証明、 引証	弁論、証明、引 証、立論	弁論、証明、 引証	弁論、証明、 引証、 <u>立論</u>	弁論、証明、 引証、立論
Aristocracy, n.	貴族政治ノ タイサイ 体裁、貴族	貴族政治ノ体 裁、貴族	貴族政治ノ タイサイ 体裁、貴族	<u>貴族政体</u> 、貴 族、 <u>貴族政治</u>	貴族政治ノ タイサイ キョク 体裁、貴族

Assert, vt.	サダムル マモ 定ル、守 ル、固ク言 フ、固守スル	定ムル、守ル、 固ク言フ、固守 スル	サダムル マモ 定ル、守ル、 固ク言フ、固守 スル	サダムル マモ 定ル、守ル、 固ク言フ、固守 スル、 <u>説ク</u>	サダムル マモ 定ル、守 ル、固ク言 フ、固守スル
Assumption, n.	ヒキウケ カリキメ 担承、仮定、 サウゾウ シヤウテン 想像、升天	担承、仮説、包 摂、仮定、想 像、升天	ヒキウケ カリキメ 担承、仮定、 サウゾウ シヤウテン 想像、升天	ヒキウケ カリキメ 担承、仮定、 サウゾウ シヤウテン 想像、升天、 <u>カセツ</u> 仮説	ヒキウケ カセツ 担承、仮説、 カリキメ サウゾウ 仮定、想像、 セツ 仮定ノ説、 シヤウテン 升天
Atheism, n.	カミ ナ 神ハ、無モノ ト思フ、不信神 教	神ハ、無モノト 思フ、不信神 教	カミ ナ 神ハ、無モノト 思フ	カミ ナ 神ハ、無モノト 思フ、 フシンジキヤウ 不信神教	カミ ナ 神ハ、無モノ ト思フ、 オモ 不信神教
Atheistic, Atheistical, a.	神ハ、無モノ ト思フ、 フシンカウ 不信仰ナル	神ハ、無モノト 思フ、不信心ナ ル	神ハ、無モノト 思フ、不信仰ナ ル	神ハ、無モノト 思フ、不信仰ナ ル、 <u>不信神教ノ</u>	神ハ、無モノト 思フ、不信心 ナル
Attainment, n.	トドキ リ 達、利、 エモノ サイノウ 所持、才能	達、利、所得、 才能、上達、手 練、造詣	トドキ リ 達、利、 エモノ サイノウ 所持、才能	トドキ リ 達、利、 エモノ サイノウ 所持、才能、 ジョウダツ シュレン 上達、手練	トドキ リ 達、利、 エモノ サイノウ 所得、才能、 ジョウダツ シュレン 上達、手練、 ガクシキ 学識
Authority, n.	井ケン ショウコ 威権、証拠、 シンニン 井タワウ 信任、威光、 ユルシ ゼンレイ 許可、前例、 シハイ ヤクニン 管轄、有司	威権、教権、証 拠、信任、威 光、許可、前 例、管轄、官、 官府、有司	井ケン ショウコ 威権、証拠、 シンニン 井タワウ 信任、威光、 ユルシ ゼンレイ 許可、前例、 シハイ ヤクニン 管轄、有司	井ケン ショウコ 威権、証拠、 シンニン 井タワウ 信任、威光、 ユルシ ゼンレイ 許可、前例、 シハイ ヤクニン 管轄、有司、 <u>ヨリコト</u> 憑拠	井ケン ケウケン 威権、教権、 シンニン シンニン 証拠、信任、 井タワウ ユルシ 威光、許可、 ゼンレイ シハイ 前例、管轄、 クワン クワン 官、官府、 ヤクニン 有司

表中の朱字（例「食蟻獣」）は、④天野訂正・鈴木増補版にあって、③小林初版にはみられない訳語（語釈）を、朱字に下線（例「専門学校」）は、④天野訂正・鈴木増補版にのみ認められる訳語（語釈）を、青字（例「附録」）は、⑤柴田・子安増補訂正第2版再版が、天野訂正・鈴木増補版を参考にした可能性のある訳語（語釈）をそれぞれ示している。

表2の異同を精査すると、天野訂正・鈴木増補版の訂正・増補には、以下の3タイプあることがわかる。

Aタイプ：天野訂正・鈴木増補版だけにみられる訳語（語釈）を含むもの

Bタイプ：天野訂正・鈴木増補版が柴田・子安増補訂正第2版（明治15（1882）年）を参考にしたと思われるもの

Cタイプ：柴田・子安増補訂正第2版再版（明治20（1887）年）が天野訂正・鈴木増補版を参考にしたと思われるもの

各タイプの具体例は以下の通りである。ルビは省略し、該当する訳語（語釈）のみを示す。

## A タイプ (24 語)

Al, a ship of the first class (保険社中ノ )  
 Academy, n. 専門学校 Military  
 Academy 陸軍学校  
 Address, n. 演舌  
 Adieu, n. (サヨナラ、御機嫌ヨー)  
 Administration, n. 施行、政行  
 Administrative, a. 行政ノ、施政ノ  
 Admittance, n. No admittance 無用ノ者入  
 ルベカラズ  
 Advocateship, n. 代言職  
 Affirmative, n. 正面  
 Agglutinative, a. 連合ノ  
 Algebra, n. 代数

Algebraic, a. 代数ノ  
 Algebraically, adv. 代数ニテ  
 Algebraist, n. 代数家  
 Amateur, n. 技術ヲ好ム人  
 Apprentice, n. 年期奉公人  
 Aqueduct, n. 水道  
 Arbitrator, n. 中裁人  
 Architectural, a. 建築学ノ  
 Architecture, n. 建築学  
 Aristocracy, n. 貴族政体、貴族政治  
 Assert, vt. 説ク  
 Atheistic, Atheistical, a. 不信神教ノ  
 Authority, n. 憑処

## B タイプ (29 語)

Aard-vark, n. 食蟻獸  
 Affinity, n. 異性婚姻  
 Affirmative, a. 正面ノ  
 Agent, n. 作因  
 Aggregate, n. 叢會  
 Agreement, n. 一致  
 Agriculture, n. 農務局  
 Alcohol, n. 亞爾箇保兒、醇  
 Alcoholic, a. 亞爾箇保兒ノ、醇ノ  
 Amaranth, n. 雁来紅  
 Ambassador, n. 大使、欽差  
 Ambiguity, n. 汎意  
 Ambition, n. 功名心  
 Analects, n. 語録  
 Analogue, n. 異体同功

Anchorect, Anchorite, n. 仙人  
 Annihilation, n. 成空、帰無  
 Antagonism, n. 反対論  
 Antecedent, n. 前項 (論理ノ語)  
 Aphonism, n. 金言  
 Appealable, a. 上告スベキ  
 Appearance, n. 外見  
 Appellate, a. 上告ノ  
 Application, n. 応用  
 Approbation, n. 褒揚  
 Argumentation, n. 立論  
 Assumption, n. 仮説  
 Atheism, n. 不信神教  
 Attainment, n. 上達、手練

## C タイプ (1 語)

Appendix, n. 附録

このように、訂正増補された 54 見出し語のうち、天野・鈴木独自の訳語 (語釈) を含んだ見出し語が 24 語 (44.4%) で、明治 15 (1882) 年柴田・子安増補訂正第 2 版を参考にした痕跡がみられるものは 29 語 (53.7%) と半数以上を占めている。したがって、この割合からもわかるように、天野訂正・鈴木増補版は、岩崎 (1935) が述べているような単なる写本、ファクシミリ版でも、新版があるにも関わらず、わざわざ内容的に劣った旧版 (明治 6 (1873) 年初版) をそのまま写した辞書でもないことは明らかである。また、柴田・子安初版やその増補訂正第 2 版

にはみられず、天野訂正・鈴木増補版で初めて取り上げられた訳語（語釈）が翌年の明治 20 (1887) 年に世に出た柴田・子安増補訂正第 2 版再版にみられるものが 1 語認められたことから、原纂訳者である柴田・子安が天野訂正・鈴木増補版を参考にした可能性を示すものまで認められた<sup>14</sup>。

では、天野と鈴木は、他の柴田・子安『英和字彙』系にみられない訳語（語釈）（A タイプの語）について、どのような辞書を参考にしたのだろうか。‘Adieu, n.’ という見出し語について、手元にある辞書を調査してみた。明治 19 (1886) 年以前に刊行されたものの中で、天野・鈴木が取り上げている語釈、「(サヨナラ、御機嫌ヨー)」に類似した訳語を示しているのは、J. C. ヘボン『和英語林集成』再版、明治 5 (1872) 年のみであった。その英和の部 (An English-Japanese Dictionary) には、「Adieu, adv. Sayōnara, sayōnaraba, go-kigen-yoku.」と出ている。また、‘Apprentice, n.’ に対する「年期奉公人」や ‘Amateur, n.’ に対する「技術ヲ好ム人」<sup>ゴキゲン</sup>、‘Arbitrator, n.’ に対する「中裁人」という訳語も J. C. ヘボン『和英語林集成』再版、明治 5 (1872) 年では、それぞれ「Apprentice, n. Nenki-mono, deshi (t.v.) Nenki-hōkōsuru.」、「Shirōto nite sono waza wo tanoshimini kononde suru hito」、「Arbitrator, n. Saibna nin, giyōji, chūsainin.」というように、類似の訳語（語釈）がみえる。これら数例から断言するのは慎重でなければならないものの、天野・鈴木の訂正・増補においては、柴田・子安『英和字彙』系の辞書のみならず、ヘボン辞書なども参考にした可能性がある<sup>15</sup>。というのは、後述するように、天野も鈴木もともに佐賀県唐津（唐津藩）の出身で、明治初年に地元の英学校で英学を修めたが、そこでヘボンと直接交わりのあった英学教師に指導を受けている。そのような縁があったことから、天野と鈴木はヘボン辞書も参考に訂正・増補したとしてもあながち的外れではないだろう。

さらにもう 1 つ、天野訂正・鈴木増補版において非常に興味深い新訳語の掲出がみられる。‘Address, n.’ に対する「演舌」という訳語である。筆者の手元にある幕末から天野訂正・鈴木増補版が出版されるまでの間に刊行された、例えば、堀達之助『英和对訳袖珍辞書』文久 2 (1862) 年や吉田賢輔『英和字典』明治 5 (1872) 年、市川義夫纂訳・嶋田三郎校訂『英和和英字彙大全』明治 18 (1885) 年、前田元敏『英和对訳大辞彙』初版、明治 18 (1885) 年など、明治前期を代表する英和对訳辞書を渉猟してみたが、「演舌」という訳語を掲出している辞書は見当たらなかった。天野訂正・鈴木増補版（明治 19 (1886) 年 7 月出版）の 3 ヶ月後に出版された J. C. ヘボンの『改正増補和英英和語林集成』第 3 版、明治 19 (1886) 年 10 月、丸善商社には「enzetsu」という語が見える。しかし、この辞書は天野訂正・鈴木増補版の出版が先であるため、天野・鈴木がこのヘボン第 3 版を参考にしたとは考えにくい。逆に、ヘボンが天野訂正・鈴木増補を参考にした可能性も考えられないわけではない。いずれにしても、米国の Abraham Lincoln 大統領による 1863 年の、彼の有名な ‘Gettysburg Address’ を「ゲティスバーグ演説」とするように、現今では「舌」の漢字は異なるものの普通に「演説」という言葉が ‘Address’ (名詞) の訳語の 1 つとしてたいていの英和辞書には出ている。天野訂正・鈴木増補版は、「演舌」という訳語を採用した初めての英和对訳辞書とまでは現段階では言い切れないが、少なく

<sup>14</sup> もちろん、これら 2 語の訳語（語釈）については、他の辞書を参考にした可能性は否定できない。

<sup>15</sup> 「(サヨナラ、御機嫌ヨー)」という語釈の追加は、訂正ではなく増補であるから、この語釈は鈴木によるものと考えられる。



ともそのような初期の英和対訳辞書の1本であったことは確かである。

以上のように、天野訂正・鈴木増補版は、単に3分の1ほどの価格であったことが唯一の特徴ではなく、利用者の便を考慮して、漢字にフリガナを付ける旧版のやり方を踏襲しながらも、訳語の内容は明治15(1882)年柴田・子安増補訂正第2版などを積極的に参考にして、さらに独自の訳語や語釈を増補した英和対訳辞書であると言えるだろう。

なお、本稿では、A項見出し語の訳語(語釈)のみを調査の対象とした。上で確認した訂正・増補の信憑性を再確認するため、③小林初版と④天野訂正・鈴木増補版の訳語(語釈)に異同を認める見出し語を以下にいくつか拾ってみた。④天野訂正・鈴木増補版で増補された訳語(語釈)は朱字に下線を施したものである。

Cockroach, n.

- ③ <sup>ムシノナ</sup>蟲名  
④ <sup>ムシノナ</sup>蟲名 <sup>アブラムシ</sup>(油蟲)

Genius, n.

- ③ <sup>エイサイ</sup>英才、<sup>キサイ</sup>奇才、<sup>リョク</sup>才力、<sup>シ</sup>才子  
④ <sup>エイサイ</sup>英才、<sup>キサイ</sup>奇才、<sup>リョク</sup>才力、<sup>シ</sup>才子、<sup>シヒツ</sup>資質

Philosophy, n.

- ③ <sup>ロン</sup>理学、<sup>クワ</sup>理論、<sup>クワ</sup>理科 Natural philosophy <sup>キウ</sup>窮理学、<sup>ハクブツ</sup>博物理学、Intellectual philosophy <sup>チ</sup>智学、  
Moral philosophy <sup>リン</sup>倫理学、<sup>シウシン</sup>修身学  
④ <sup>ロン</sup>理学、<sup>クワ</sup>理論、<sup>クワ</sup>理科、<sup>リン</sup>哲学 Natural philosophy <sup>キウ</sup>窮理学、<sup>ハクブツ</sup>博物理学、Intellectual philosophy <sup>チ</sup>智学、  
Moral philosophy <sup>リン</sup>倫理学、<sup>シウシン</sup>修身学

Psychology, n.

- ③ <sup>シンシン</sup>精心論  
④ <sup>シンシン</sup>精心論、<sup>シンリ</sup>心理学

School, n.

- ③ <sup>ケウジユ</sup>学校、<sup>クワ</sup>教授、<sup>クワ</sup>学課、<sup>アツマリ</sup>教門、<sup>アツマリ</sup>群集 A free school <sup>ジユク</sup>義塾、A dancing school <sup>オドリケイコバ</sup>跳舞館、A school  
of fishes <sup>ヒトムレ</sup>一群ノ魚  
④ <sup>ケウジユ</sup>学校、<sup>クワ</sup>教授、<sup>クワ</sup>学課、<sup>アツマリ</sup>教門、<sup>アツマリ</sup>群集、<sup>ガクハ</sup>学派 A free school <sup>ジユク</sup>義塾、A dancing school <sup>オドリケイコバ</sup>跳舞館、  
A school of fishes <sup>ヒトムレ</sup>一群ノ魚

Science, n.

- ③ <sup>ゲイ</sup>学、<sup>モン</sup>芸、<sup>チ</sup>学問、<sup>エ</sup>智恵、<sup>チ</sup>智識、<sup>エ</sup>博学  
④ <sup>ゲイ</sup>学、<sup>モン</sup>芸、<sup>チ</sup>学問、<sup>エ</sup>智恵、<sup>チ</sup>智識、<sup>エ</sup>博学、<sup>リ</sup>理学、<sup>カ</sup>科学

Society, n.

- ③ <sup>ナガマ</sup>会、<sup>クニアヒ</sup>会社、<sup>レンシユ</sup>連衆、<sup>カウサイ</sup>交際、<sup>イツチ</sup>合同、<sup>シヤチウ</sup>社友  
④ <sup>ナガマ</sup>会、<sup>クニアヒ</sup>会社、<sup>レンシユ</sup>連衆、<sup>カウサイ</sup>交際、<sup>イツチ</sup>合同、<sup>シヤチウ</sup>社友、<sup>シヤクワイ</sup>社会

Statistics, n

- ③ <sup>コクシ</sup>国誌、<sup>トウジ</sup>統計表、<sup>コクシ</sup>国誌学  
④ <sup>コクシ</sup>国誌、<sup>トウジ</sup>統計表、<sup>コクシ</sup>国誌学、<sup>トウジ</sup>統計学

B項以降の見出し語についての本格的な調査を待たなければならないが、上で示した例から判

断すると、天野と鈴木による訂正・増補は、単に冒頭部のA項だけに限られたものではないことがわかる。今後の調査で更にその特徴が明らかになることを期待したい。

なお、訂正者・増補者の人物像について簡単に触れておきたい。まず、訂正者の天野為之（あまのためゆき、安政6(1858)年<sup>16</sup>—昭和13(1938)年）は、佐賀県唐津の出身で、父は藩医の天野松庵であった（早川, 2006）。鈴木重陽と同様に、唐津藩の耐恒寮<sup>17</sup>に英学を修めた（石井, 2001）。その後、東京に出て、東京大学でフェノロサから経済学を学び、特にミルの植民地放棄論を研究した。明治15(1882)年には、大隈重信、小野梓、高田早苗らとともに東京専門学校（現早稲田大学）の創立に参加し、後に東洋経済新報社長、衆議院議員、早稲田大学長などを務めた。『経済原論』などの経済学に関する多数の著書がある。福沢諭吉、田口卯吉とならんで明治前期の三大経済学者と称せられ、坪内逍遙、高田早苗とともに、早稲田の三尊と称えられたという（石井, 2001）。

一方の増補者である鈴木重陽（すずきちようよう、安政4(1857)年—没年未詳）は、大村・高梨・出来(1980)によると、天野と同郷の佐賀県唐津の生まれで、同じく耐恒寮において英語を修めたという。当時の英学教師の中には、後に内閣総理大臣を務めた高橋是清がいた。石井(2001)によれば、高橋はヘボン夫人に直接本場の英語を学んでいる。天野も鈴木もヘボンと直接の交流があったかどうかは定かでないが、2人が師を通じてヘボン辞書に精通していても不思議ではない。鈴木はその後、明治6(1873)年には長崎外国語学校英語学校を卒業し、後に東京大学法学部に学び、卒業後は東京府第一中学校（後の日比谷高校）で英語を教え英語会話を担当した。また、ひげもじゃの達磨のような教員であったという。なお、鈴木重陽は、明治期を代表する英学者の1人で、夏目漱石の『吾輩は猫である』にも登場する郁文館中学校を創設し、校長を務めた棚橋一郎と共著で、『英和字海』明治20(1887)年、東京：文学社を出版している。豊田(1939)によれば、この辞書は、薩摩辞書と呼ばれる薩摩学生『改正増補和訳英辞書』明治2(1869)年、上海：美華書院の第2版である薩摩学生／前田正毅・高橋良昭『大正増補和訳英辞林』明治4(1871)年、上海：美華書院を底本として、日就社の柴田・子安『英和字彙』の訳語を参照して成立したものであるとしており、確かに類似の訳語がみえる一方、例えば、名詞‘Address’の訳語をこれら3つの辞書で比較してみると、棚橋・鈴木『英和字海』には「名宛」という、他の辞書にはみられない訳語の掲出もある。したがって、棚橋・鈴木『英和字海』は、『改正増補和訳英辞書』と『大正増補和訳英辞林』の訳語をそのまま踏襲した新味のない英和对訳辞書であると評価を下すのは早計であろう。この棚橋・鈴木『英和字海』の評価についても、今後の公平かつ綿密な研究が待たれる。

#### 4. おわりに

本稿の目的は、明治19(1886)年に出版された天野訂正・鈴木増補版『英和字彙』の実相を明らかにし、訂正増補版と称するに相応しい版であるのか、その信憑性を明らかにすることであった。柴田・子安『英和字彙』系の5版における訳語（語釈）の異同を検討した結果、天野

<sup>16</sup> 石井(2001)によると、天野の生年は、「万延元(1860)年」となっている。

<sup>17</sup> このことについても石井(2001)の記述と異なる。石井(2001: 41)では、唐津藩が職制を改革し、洋学部を新設し、それを「耐恒寮」と名づけた、とある。したがって、慶応2年の段階では、まだ耐恒寮は存在しないことになる。

訂正・鈴木増補版は、ファクシミリ版でも、新版があるにも関わらずわざわざ内容的に劣った旧版（明治6（1873）年初版）をそのまま写した辞書でもないことが明らかになった。

西洋文化が大量に流入した鹿鳴館時代に刊行された数多くの辞書の中には、新味のない、先行の辞書をただ「ノリとハサミで切貼りした抜取り辞書」（惣郷, 1973:196）が横行したことも否定はできない。しかし、村端（2008）が確認したように、柴田・子安『英和字彙』のコピー本であり、「内容的にとるに足らない」（早川, 2006:12）と評された当時の辞書の中には、例えば前田元敏『英和対訳大辞彙』明治18（1885）年大阪：同志社のように、柴田・子安英和字彙とは見出し語に20%前後の差異があること、原著にはみられない例句・例文を多数採用していることなど、先行辞書との比較において多くの特徴があることが判明するなど、実際に現物にあたって詳細に調査すれば先賢の書評の内容が問われることも稀ではない。「その道の権威が編集したものだから優れているのに決まっている」（忍足, 1982:164）とか、その道の権威や立派な学者が述べているのだから間違いはない、などと盲目的に前例を踏襲するのは学問の発展を疎外しかねない（牧野, 1936; 村端, 2005）<sup>18</sup>。このような権威の妄信的踏襲は、単なる辞書の「紹介」であって「書評」とは言えないだろう。前田元敏『英和対訳大辞彙』も天野訂正・鈴木増補版もそのように「紹介」されてきた英和対訳辞書の好例である。今後、これらの辞書のように英学史に埋もれた辞書がさらに発掘され、「その道の権威が指摘することを盲信する権威主義」（村端, 2008: 164）に陥ることなく質・量の両面の客観的な視角から正当な評価を受けることを願ってやまない。

## 参考文献

- 荒木伊兵衛 (1931). 『日本英語学書志』 東京：創元社．
- 石井重光 (2001). 「高橋是清と肥前唐津の英学」『近畿大学語学教育部紀要』 第1巻第1号、39-56.
- 岩崎克己 (1935). 『柴田昌吉伝』 東京：一誠堂書店．
- 大阪女子大学図書館 (1962). 『大阪女子大学蔵 日本英学資料解題』 大阪：大阪女子大学．
- 大村喜吉・高梨健吉・出来成訓編 (1980). 『英語教育史資料 第5巻 英語教育事典・年表』 東京：東京法令出版．
- 忍足欣四郎 (1982). 『英和辞典うらおもて』 東京：岩波書店．
- 惣郷正明 (1973). 『辞書風物誌』 東京：朝日新聞社．
- 豊田実 (1939). 『日本英学史の研究』 東京：岩波書店．
- 早川勇 (2006). 『日本の英語辞書と編纂者』 横浜：春風社．
- 牧野富太郎 (1936). 「Plum ハ梅に非ズ」『植物分類研究(下)』 牧野植物学全集第6巻、東京：誠文堂、219-222..
- 村端五郎 (2005). 「牧野富太郎が英和辞書の訳語に与えた影響 — ‘Plum’ の訳語を事例として—」『紀要』 四国英語教育学会、第11号、11-20.

<sup>18</sup> 権威主義に陥ることなく、学問の正確さを常に追究した世界的植物学者・牧野富太郎は、英和辞書には訳語に誤謬が多く、例えば、‘Plum’ の訳語もその1つであることを次のように強く嘆いている。「今日我邦ノ英語界デハ Plum ヲうめ即チ梅ト言ッテ居ルガ是レハ極テ非デうめハ決シテ Plum デハナイ然レバ Plum ハ何デアアルカト云フト是レハすも、即チ李デアアル世間デ英和辞書ナドヲ編纂スル人又ハ英語ヲ教授スル人又ハ英語ヲ話ス人ナドハ何故ニ早ク此誤訳ヲ止メヌデアロウカ私ニハ一向ニ合点ガ行カヌ今日英和辞書ナドヲ編纂スル人々ニハ立派ナ学者モ少ナカラヌノニ矢張依然トシテ昔ノママノ誤ヲ襲 デ居ルノハ甚ダ遺憾ノ至デアル」(牧野, 1936: 219)。

村端五郎 (2008). 「前田元敏と『英和对訳大辞彙』」『国際社会文化研究』（高知大学人文学部国際社会コミュニケーション学科）Vol. 9, 129-166.

村端五郎 (2021). 「近現代英和对訳辞書における訳語変遷に関する研究 — ‘Giraffe’ 訳語の問題を中心に —」『宮崎大学教育学部紀要』第 97 号、85-114.

森岡健二 (1969). 『近代語の成立—明治期語彙編』東京：明治書院.

読売新聞社編 (1994). 『読売新聞百二十年史』東京：読売新聞社.

（調査した英和对訳辞書）

堀達之助『英和对訳袖珍辞書』初版、文久 2 年、江戸：開成所.（覆刻、筆者私家蔵）

堀達之助・堀越亀之助補『改正増補英和对訳袖珍辞書』慶応 2 (1866) 年、開成所.（筆者私家蔵）

J. C. ヘボン『和英語林集成』慶応 3 (1867) 年、横浜：上海・美華書院.（覆刻、筆者私家蔵）

薩摩学生『改正増補和訳英辞書』明治 2 (1869) 年、上海：美華書院.（覆刻、筆者私家蔵）

薩摩学生／前田正毅・高橋良昭『大正増補和訳英辞林』明治 4 (1871) 年、上海：美華書院.（筆者私家蔵）

吉田賢輔『英和字典』明治 5 (1872) 年、東京：知新館蔵版.（筆者私家蔵）

J. C. ヘボン『和英語林集成』再版、明治 5 (1872) 年、横浜：上海・美華書院.（筆者私家蔵）

荒井郁『英和对訳辞書』明治 5 (1872) 年、東京：開拓使.（筆者私家蔵）

柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』明治 6 (1873) 年、横浜：日就社.（筆者私家蔵）

青木輔清『英和掌中字典』明治 6 (1873) 年、有馬私学校蔵版.（筆者私家蔵）

天野芳次郎蔵版『稟准和訳英辞書』明治 6 (1873) 年、天野芳次郎蔵版、東京新製活版所.（筆者私家蔵）

岸田吟香『和訳英語聯珠』明治 6 (1873) 年、東京：耕文書館.（筆者私家蔵）

大屋愷・田中正義・中宮誠之『広益英倭字典』明治 7 (1874) 年、加賀：金沢（国立国会図書館蔵、近代デジタルライブラリー）

柴田昌吉・子安峻『増補訂正英和字彙』第 2 版、明治 15 (1882) 年、横浜：日就社.（筆者私家蔵）

西山義行編・露木精一訂正『英和袖珍字彙』明治 17 (1884) 年、東京：四書房.（筆者私家蔵）

傍木哲二郎纂訳・小栗栖香平校訂『明治新撰和訳英辞林』明治 18 (1885) 年、東京：細川氏.（筆者私家蔵）

市川義夫纂訳・嶋田三郎校訂『英和和英字彙大全』明治 18 (1885) 年、横浜：如雲閣.（筆者私家蔵）

前田元敏『英和对訳大辞彙』明治 18 (1885) 年、大阪：同志社出版.（筆者私家蔵）

柴田昌吉・子安峻『附音図解英和字彙』明治 18 (1885) 年、東京：文学社.（国立国会図書館蔵、近代デジタルライブラリー）

柴田昌吉・子安峻編訳／天野為之訂正・鈴木重陽増補『附音図解英和字彙』第 2 版、明治 19 (1886) 年、東京：文学社.（筆者私家蔵）

柴田昌吉・子安峻『増補訂正英和字彙』第 2 版再版、明治 20 (1887) 年、横浜：日就社.（筆者私家蔵）

（2021 年 9 月 21 日受理）